

福岡県観光の現状と課題について



令和8年8月19日
福岡県商工部観光局



1 第三次福岡県観光振興指針（2024年度～2026年度）について

1

● 目指す将来像 ⇒ 「“つながる” 福岡観光」

基本方針

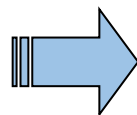
- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1 回復するインバウンド需要の本県への着実な取込 | 3 観光DXの推進 |
| 2 リピーターの確保と県内の周遊促進 | 4 持続可能な観光（観光SDGs）の推進 |

● 施策の柱と方向性

施策の柱

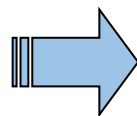
1 受入環境の充実

- 全ての旅行者が快適に旅行を楽しめる環境整備



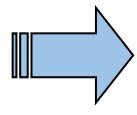
2 観光資源の魅力向上

- 旅行者の県内周遊の促進、滞在時間や旅行消費の拡大



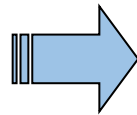
3 戦略的なプロモーション

- 本県の認知度向上、国内外からの更なる誘客促進及び安定的な旅行需要の喚起



4 観光振興の体制強化

- 各地域の観光を支える人づくり
- 戦略的な観光振興施策の推進 など



施策の方向性

- ① 誰もが快適に観光できる基盤づくり
- ② 観光振興と地域の調和の推進
- ③ 国際航空路線の誘致

- ④ 魅力ある観光地域づくり、観光資源の開発
- ⑤ 体験、交流、滞在型観光の推進

- ⑥ デジタルプロモーションの推進
- ⑦ 本県の強みを活かしたプロモーション
- ⑧ 九州一体となったプロモーション
- ⑨ 県内全域における安定的な旅行需要の喚起

- ⑩ 各地域の観光を支える人づくり
- ⑪ デジタルマーケティングの強化
- ⑫ 観光関連団体の機能強化
- ⑬ 市町村が実施する観光振興施策への財政的支援

1 第三次福岡県観光振興指針（2024年度～2026年度）について

2

● 目標値（KPI）

数値目標	参 考 2019年(R1)	2022年(R4)	2023年(R5)	2024年(R6)	実績 2025年(R7)	目標 達成率	目標値 2026年(R8)
延べ宿泊者数	2, 042万人泊	1, 399万人泊	2, 112万人泊	2, 395万人泊	2, 548万人泊	108.7%	2, 344万人泊
うち日本人	1, 616万人泊	1, 339万人泊	1, 609万人泊	1, 656万人泊	1, 706万人泊	96.3%	1, 772万人泊
うち外国人	426万人泊	61万人泊	504万人泊	739万人泊	842万人泊	147.2%	572万人泊
旅行消費額	9, 934億円	(※1) -	9, 659億円	13, 252億円	13, 325億円	109.2%	12, 200億円
うち日本人	7, 996億円	5, 477億円	6, 949億円	9, 287億円	8, 612億円	97.9%	8, 800億円
うち外国人 (※2)	1, 938億円	(※1) -	2, 710億円 (※4)	3, 965億円	4, 713億円	138.6%	3, 400億円
旅行消費単価 (日本人)	44, 615円	44, 869円	54, 442円	56, 744円	52, 688円	103.7%	50, 800円
旅行消費単価 (通常入国外国人)	65, 700円	(※1) -	87, 512円	95, 485円	101, 065円	118.3%	85, 400円
リピーター率 (日本人)(※3)	—	68. 1%	65. 6%	65. 6% 【2023年(R5)】	65. 1% 【2024年(R6)】	93.0%	70%
リピーター率 (アジア)	—	—	40. 1%	42. 3%	46. 0%	102.2%	45%
リピーター率 (欧米豪)	—	—	21. 7%	36. 2%	39. 3%	157.2%	25%

注：表示単位未満四捨五入の関係で、積上げと合計が一致しない箇所がある

【出典】①延べ宿泊者数：観光庁「宿泊旅行統計」、②旅行消費額：観光庁「旅行・観光消費動向調査」、観光庁「インバウンド消費動向調査」及び法務省「出入国管理統計」を基に福岡県算出

③旅行消費単価：観光庁「旅行・観光消費動向調査」「インバウンド消費動向調査」、④リピーター率：「福岡県観光ビッグデータ調査」（アンケート調査）

※1 旅行消費額（外国人）、旅行消費単価（通常入国外国人）については、国調査（観光庁「訪日外国人消費動向調査」）が2022（令和4）年7～9 月期まで全国籍・地域のみの公表としているため不明。

※2 旅行消費額（外国人）の把握方法については、(1)通常入国分（旅行消費単価（通常入国外国人）×外国人来訪者数（観光庁「訪日外国人消費動向調査」に基づき推計）、(2)クルーズ船入国分（旅行消費単価（クルーズ客）×クルーズ船入国者数（法務省「出入国管理統計」））、を合計

※3 過去3 年間に福岡県の訪問回数が2 回以上の県外在住者の割合。

※4 調査が再開された2023年4-12月（通常入国外国人）及び7-12月（クルーズ調査）の結果を基に算出

1 第三次福岡県観光振興指針（2024年度～2026年度）について

3

4つの施策に係る目標

- 1 受入環境の充実
- 2 観光資源の魅力向上

- 3 戦略的なプロモーション
- 4 観光振興の体制強化

1 受入環境の充実

成果指標	当初値 (2022年,R4)	実績 2025年(R7)	目標値 (2026年,R8)
宿泊施設の生産性向上支援件数	38件／年	累計70件	累計150件
旅行者満足度(日本人)	87.5%	89.3%	90%
旅行者満足度(外国人)	94.9% 【2023年,R5】	98.5%	97%
住民満足度(観光振興による福岡県の活気の実感)	58.9%	71.4%	70%
福岡空港の新規国際路線誘致数	—	累計5路線 ※R5年度から	累計4路線

2 観光資源の魅力向上

成果指標	当初値 (2022年,R4)	実績 2025年(R7)	目標値 (2026年,R8)
福岡県広域サイクリングルートの整備数 (県管轄区間)	3ルート	5ルート	7ルート
高付加価値な旅行商品(※)の販売数	—	累計18商品	累計30商品

※特別な体験を提供することなどにより、目標値(KPI)に掲げている旅行消費単価の約2倍(日本人向けは10万円、外国人向けは20万円)以上となる旅行商品(県が造成に関わり、かつ、政令市以外の訪問を含む旅行商品に限る)。

3 戦略的なプロモーション

成果指標	当初値 (2022年,R4)	実績 2025年(R7)	目標値 (2026年,R8)
福岡の認知度(アジア)※	31%(15位) 【2023年,R5】	38%(8位)	37%(12位)
福岡の認知度(欧米豪)※	8%(15位) 【2023年,R5】	9%(13位)	10%(14位)
政令市以外を訪問した旅行者の割合 (日本人)	48.5% 【2022年,R4】	46.0% 【2024年,R6】	50%
政令市以外を訪問した旅行者の割合 (外国人)	23.5% 【2022年,R4】	25.5% 【2024年,R6】	25%

4 観光振興の体制強化

成果指標	当初値 (2022年,R4)	実績 2025年(R7)	目標値 (2026年,R8)
観光産業を支える人材の育成人数	累計3,033人	累計3,053人	累計3,000人
新規事業を創出したDMOの数	—	累計9団体	累計10団体

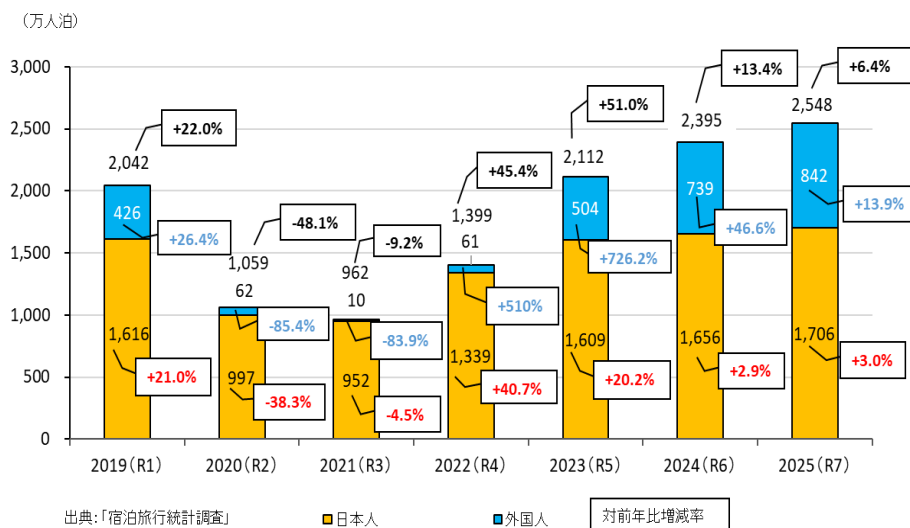
2 本県の現状と課題について

4

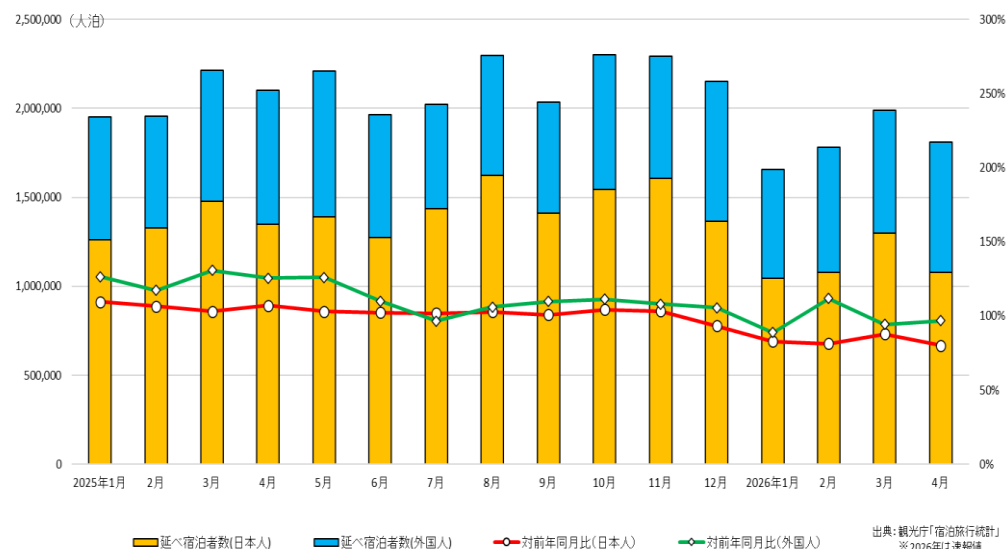
(1) 宿泊者の現状①（延べ宿泊者数）

- 本県の延べ宿泊者数は、2019年に初めて2,000万人泊を突破して以降、新型コロナウイルス感染症の拡大により大きく落ち込んだ期間があったものの、2022年3月のまん延防止等重点措置解除以降は過去最高を更新し続けており、昨年は2,548万人泊となった。
- 特に外国人延べ宿泊者数の伸びが大きく、全体の伸びに大きく寄与している。
- 堅調な外国人延べ宿泊者数に対し、日本人延べ宿泊者数は微増に留まっており、また2026年1月以降は前年同月を下回る状態が続いている。全体の約7割を占める日本人宿泊者の更なる需要喚起に向けた取組が必要。

本県における延べ宿泊者数の推移（年別）



本県における延べ宿泊者数の推移（月別）



2 本県の現状と課題について

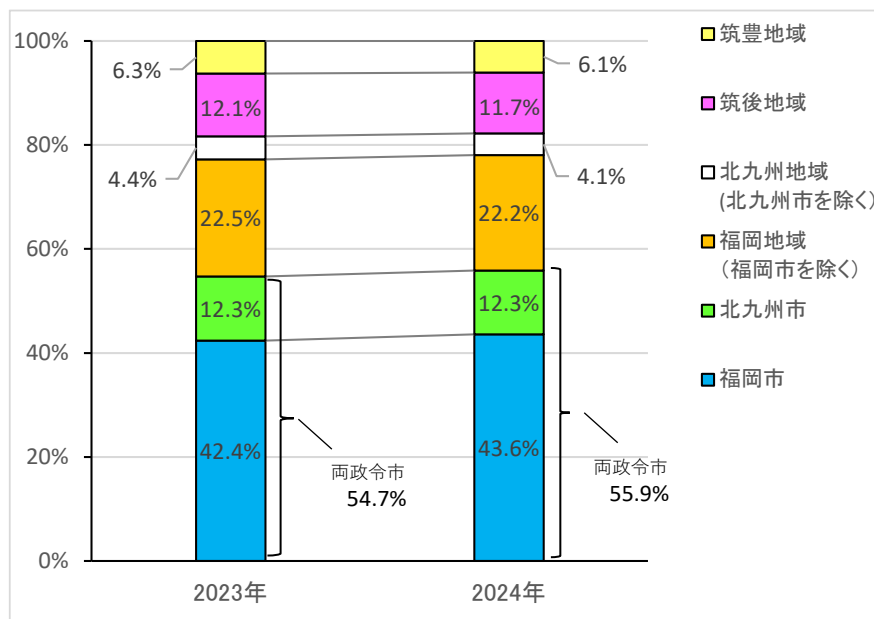
5

(1) 宿泊者の現状②（地域ごとの分布状況）

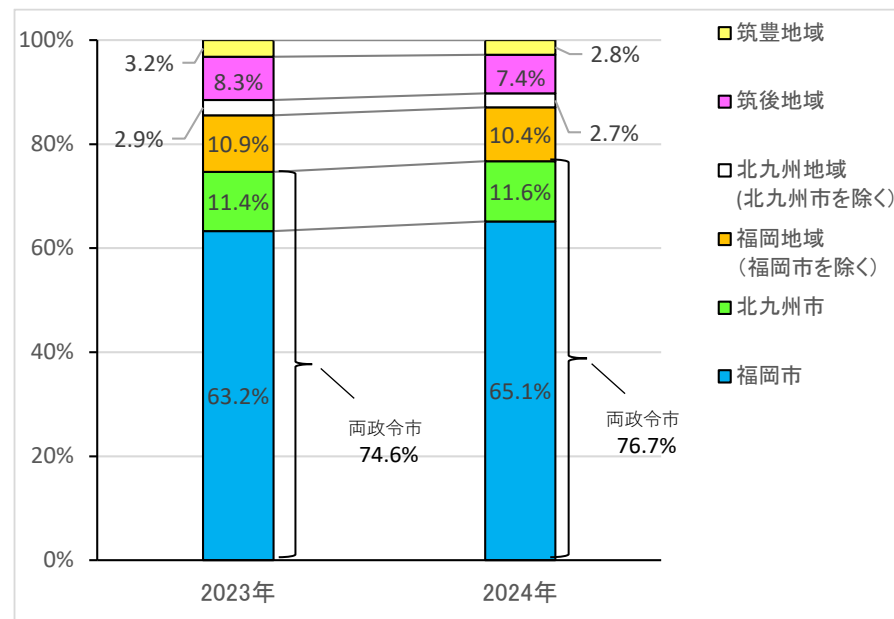
- 県内の観光客の分布状況を地域別に見ると、2024年の来訪者は両政令市で55.9%を占め、宿泊者については76.7%を占めており、両政令市、特に福岡市に集中してしている。
- 来訪者及び宿泊者を政令市以外の県内各地へ周遊させる取組により、県内各地域で観光需要をしっかりと取り込み、地域経済を活性化させることが必要。

観光客の県内各地における分布状況

【来訪者】



【宿泊者】



出典：「モバイル空間統計」による福岡県観光ビッグデータ調査
(2024、2025年度福岡県「旅行者の周遊等の状況に関する調査」対象期間：2023.1.1～12.31、2024.1.1～12.31)

2 本県の現状と課題について

6

(1) 宿泊者の現状③（客室稼働率）

- 直近では、県内の旅館業法許可施設の客室稼働率は全国平均を10ポイント近く上回って推移している。
- ビジネスホテルやシティホテル・簡易宿所の稼働率は全国平均を上回る傾向にあり、一方、旅館の稼働率は、全国平均を下回る傾向が続いている。
- 宿泊産業は地域の雇用と観光産業の基盤を支える重要な産業であることから、旅行者のニーズを満たすハード・ソフト両面での対策や、生産性向上を通じた競争力の強化とともに、旅館やリゾートホテルが多い政令市外での宿泊を促進する取組が必要。

客室稼働率の推移（宿泊施設タイプ別）

	2021年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)	2024年 (R6)	2025年 (R7)	2026年(R8)			
						1月	2月	3月	4月
全国 (A)	34.3%	46.6%	57.0%	59.6%	61.6%	52.7%	59.6%	59.4%	59.1%
旅館	22.8%	33.1%	36.7%	36.1%	38.2%	33.7%	40.1%	39.7%	37.7%
リゾートホテル	27.3%	43.4%	51.9%	54.1%	56.9%	51.1%	58.4%	58.8%	53.7%
ビジネスホテル	44.3%	56.7%	69.2%	73.7%	75.3%	65.5%	74.0%	73.1%	74.1%
シティホテル	33.6%	50.1%	68.8%	72.3%	74.1%	62.8%	69.9%	72.1%	71.7%
簡易宿所	16.6%	21.2%	25.1%	29.0%	29.6%	22.4%	25.3%	23.9%	24.6%
福岡県 (B)	34.3%	46.8%	64.8%	72.1%	72.1%	63.7%	73.2%	70.0%	72.7%
旅館	19.9%	25.1%	25.8%	28.7%	31.3%	30.8%	45.5%	38.7%	34.5%
リゾートホテル	19.3%	28.4%	55.2%	52.9%	60.6%	38.4%	40.6%	51.6%	62.6%
ビジネスホテル	37.4%	50.4%	69.3%	77.6%	77.8%	71.1%	80.8%	75.2%	79.6%
シティホテル	39.8%	58.0%	72.4%	75.6%	72.4%	66.4%	77.0%	75.7%	74.5%
簡易宿所	12.9%	22.5%	44.1%	40.9%	44.8%	51.3%	49.9%	55.0%	53.8%
(B)－(A)	0.0	0.2	7.8	12.5	10.5	11.0	13.6	10.6	13.6
旅館	△ 2.9	△ 8.0	△ 10.9	△ 7.4	△ 6.9	△ 2.9	5.4	△ 1.0	△ 3.2
リゾートホテル	△ 8.0	△ 15.0	3.3	△ 1.2	3.7	△ 12.7	△ 17.8	△ 7.2	8.9
ビジネスホテル	△ 6.9	△ 6.3	0.1	3.9	2.5	5.6	6.8	2.1	5.5
シティホテル	6.2	7.9	3.6	3.3	△ 1.7	3.6	7.1	3.6	2.8
簡易宿所	△ 3.7	1.3	19.0	11.9	15.2	28.9	24.6	31.1	29.2

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

※2026(R8)年は第二次速報値

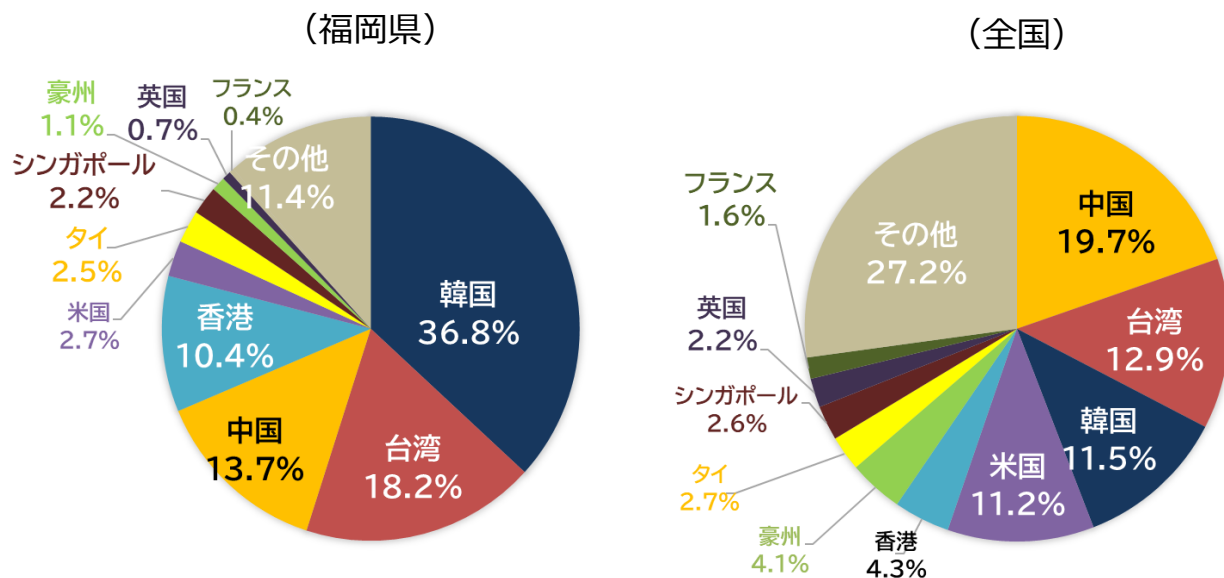
2 本県の現状と課題について

7

(2) インバウンドの現状①（国・地域別延べ宿泊者数）

- 本県における昨年の外国人延べ宿泊者数を国・地域別に見ると、韓国が36.8%を占めており、次いで台湾、中国、香港となっており、東アジアで全体の約8割を占めている。
- 一方、欧米豪の割合は全国との比較で低い。リピーター需要が見込まれる東アジアからの誘客にも引き続き取り組むとともに、欧米豪からの更なる誘客に注力していく必要がある。
- また、上記の地域に加えて、人口に占める富裕層の割合が高く、一人あたりの観光支出額が高い有望市場として期待されている中東市場においてもターゲット市場として誘客に注力していく必要がある。

国別・地域別 延べ宿泊者数（2025年）



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに福岡県作成

※従業員10名以上の宿泊施設が対象

国別人口1人あたりの国際観光支出額

国名	人口(※1) (億人) [A]	国際観光支出額 (億米ドル) [B]	一人当たりの観光支出額 (米ドル) [B/A]
シンガポール	0.06	313	5,367
カタール	0.03	142	4,659
香港	0.07	285	3,844
ノルウェー	0.06	178	3,192
アイルランド	0.05	142	2,702
クウェート	0.05	124	2,513
スイス	0.09	215	2,410
ベルギー	0.12	268	2,283
アラブ首長国連邦	0.11	251	2,276
オーストリア	0.09	167	1,831
オーストラリア	0.27	456	1,707
オランダ	0.18	287	1,574
英国	0.69	1,032	1,493
ドイツ	0.85	1,168	1,381
スウェーデン	0.11	140	1,320
デンマーク	0.11	123	1,146
カナダ	0.40	434	1,092
フランス	0.67	598	899
台湾	0.23	199	857
チェコ	0.11	88	820
サウジアラビア	0.34	277	816

出典：※1 総務省統計局「世界の統計2026」

※2 観光庁「令和8年版観光白書『国際支出ランキング2023年』」

2 本県の現状と課題について

8

(2) インバウンドの現状②（入国者数・周遊率）

- 本県の外国人入国者数は、依然アジアからが圧倒的に多く95.7%を占めている。欧米豪などその他の地域は、そのほとんどが直行便が就航している成田空港・羽田空港・関西国際空港から入国している。
- 東京都を訪問した欧米豪の旅行者が、その前後に本県を訪問している割合はわずか2.4%であり、西日本の代表的な自治体である京都府33.0%や大阪府の30.0%、また同じく直行便のない広島県の9.5%と比べても低調に留まっている。
- 欧米豪については、現時点直行便が就航していない状況で大きく増やすことは困難。そのため、本県の魅力発信を強化し、少しでも認知度を向上させることにより、成田空港・羽田空港・関西国際空港経由の入国者の本県への周遊を促す取組が必要。

国別・地域別 港別入国者数（2025年1～12月）

※通常入国外国人

（単位：人、%）

国籍・地域	全国	福岡県		全国シェア (B)/(A)
	総数 (A)	福岡県 (B)	構成比	
総数	42,430,930	3,900,474	-	9.2%
アジア	33,368,792	3,733,239	95.7%	11.2%
ヨーロッパ	3,253,461	69,161	1.8%	2.1%
アフリカ	79,111	1,481	0.0%	1.9%
北アメリカ	4,264,753	70,807	1.8%	1.7%
南アメリカ	257,299	2,415	0.1%	0.9%
オセアニア	1,206,797	23,360	0.6%	1.9%
無国籍	717	11	0.0%	1.5%

（参考）主要空港における外国人入国者数

国籍・地域	全国	千葉県		東京都		大阪府	
	総数 (A)	成田 (空港)	全国シェア	羽田 (空港)	全国シェア	関西 (空港)	全国シェア
総数	42,430,930	11,923,212	28.1%	7,144,009	16.8%	10,836,193	25.5%
アジア	33,368,792	8,475,748	25.4%	3,613,760	10.8%	9,439,540	28.3%
ヨーロッパ	3,253,461	1,123,042	34.5%	1,223,157	37.6%	656,607	20.2%
アフリカ	79,111	37,640	47.6%	20,201	25.5%	16,828	21.3%
北アメリカ	4,264,753	1,683,492	39.5%	1,810,379	42.4%	465,793	10.9%
南アメリカ	257,299	103,968	40.4%	95,073	37.0%	43,333	16.8%
オセアニア	1,206,797	499,072	41.4%	381,204	31.6%	213,918	17.7%
無国籍	717	250	34.9%	235	32.8%	174	24.3%

※出入国管理統計（法務省）をもとに福岡県作成

欧米豪旅行者（東京都訪問）の他県への周遊率

順位	周遊地域	周遊率	順位	周遊地域	周遊率
1	京都府	33.0%	11	埼玉県	6.9%
2	大阪府	30.0%	12	岐阜県	6.8%
3	神奈川県	24.6%	13	長野県	5.3%
4	千葉県	21.9%	14	石川県	5.2%
5	愛知県	12.5%	15	滋賀県	4.3%
6	奈良県	12.1%	16	栃木県	3.8%
7	静岡県	10.2%	17	岡山県	3.4%
8	広島県	9.5%	18	福岡県	2.4%
9	山梨県	8.7%	19	北海道	2.1%
10	兵庫県	8.4%	20	福井県	2.0%

※九州経済調査協会「おでかけウォッチャー（訪日版）」をもとに福岡県作成

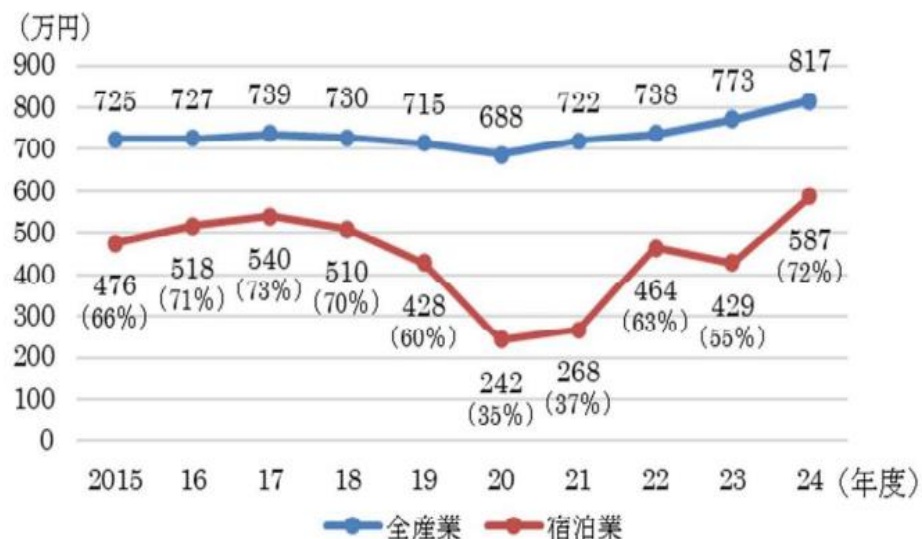
※対象地域：ヨーロッパ、北アメリカ、オセアニア

※対象期間：2025年1月～12月

(3) 宿泊業の労働生産性・雇用状況

- ・ 宿泊業の労働生産性は、2020年にはコロナの影響により大きく落ち込み、それ以降は徐々に回復しているものの、2024年時点も全産業平均の817万円に比べ587万円と低い状態になっている。
- ・ 労働需給を示す雇用人員判断D.I. をみると、宿泊・飲食サービスについては、2022年後半以降、人員不足感を感じている企業の割合が高い状態が続いている。
- ・ 観光産業における生産性の低さや人手不足等、供給面の課題が顕在化している。

労働生産性の推移（全国）



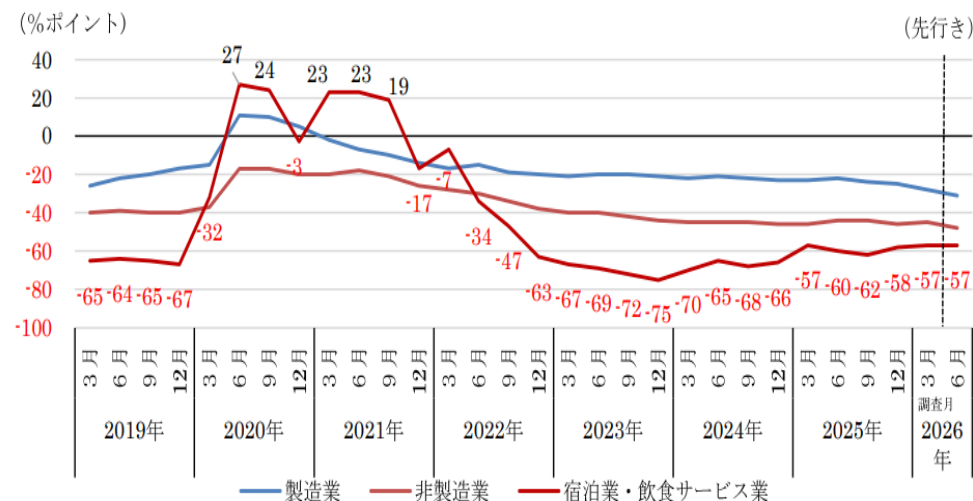
資料：財務省「法人企業統計調査」に基づき観光庁作成

注1：労働生産性は付加価値額÷期中平均従業員数から算出。
全産業は、金融業、保険業を除く値。

注2：宿泊業のカッコ内は全企業の労働生産性と比較した場合の比率。

出典：令和8年版 観光白書

企業の雇用人材判断D.I.の推移（全国）



資料：日本銀行「全国企業短期経済観測調査（短観）」

注1：雇用人員判断D.I.（「過剰」-「不足」）。全国ベース。2026年（令和8年）6月の先行きは同年3月時点の回答。

出典：令和8年版 観光白書

(4) 次期観光指針の策定に向けて意見をお伺いしたいこと

① 次期観光指針の施策の柱

本県の現状と課題を踏まえ、これまでの取組を引き続き実施していくために、現行の4つの施策の柱を次期指針においても継続すべきではないか。

指針の柱	本県の現状と課題
1 受入環境の充実	・ 堅調に推移している訪日外国人旅行者が安心して観光できるよう、引き続き受入環境の充実に取り組んでいく必要がある。 ・ 宿泊業の労働生産性は全産業平均よりも低い状態が続いている。人口減少が続く中、持続可能な観光を実現するには、各企業の生産性を高めていく必要がある。
2 観光資源の魅力向上	・ 県内の観光客は両政令市、特に福岡市に集中している。県内各地域に観光需要を取り込み、地域経済を活性化させるため、引き続き周遊・分散を促進させる必要がある。 ・ 体験・交流・滞在型観光の振興に取り組んでいくことで、本県観光の魅力を向上させていく必要がある。
3 戦略的なプロモーション	・ 訪日外国人旅行者に比べ、全体の約7割を占める日本人延べ宿泊者数は微増に留まっており、更なる需要喚起に向けたプロモーションを行う必要がある。 ・ 本県の外国人延べ宿泊者数に占める韓国や台湾などの東アジアや欧米豪の割合を考慮した、戦略的なプロモーションを行う必要がある。
4 観光振興の体制強化	・ 2022年後半以降、人員不足感を感じている企業の割合が高い状態が続いている。引き続き、将来の本県観光を支える人材の育成・確保に向けた取り組みを行う必要がある。

② 県内周遊の促進を反映できる目標値の設定

「旅行者の県内周遊の促進」を反映できる指標として、宿泊税の実績を活用した政令市、県域の構成比（**P 1 1 参照**）をK P Iとして設定してはどうか。

2 本県の現状と課題について

○ 県内周遊の促進を反映できる目標値の設定

宿泊税の実績に基づく延べ宿泊者数を用い、政令市とその他市町村（以下「県域」）の構成比をKPIとして設定する

宿泊税収実績に基づく政令市と県域の延べ宿泊者数構成比

	R2	R3	R4	R5	R6
政 令 市	76.0%	78.7%	81.6%	84.9%	85.7%
県 域	24.0%	21.3%	18.4%	15.1%	14.3%

※県域の宿泊税収実績及び「福岡市税務統計」、「北九州市税務統計」を参考に福岡県推計

【現状】

インバウンド需要の政令市への偏在により、同市の比率が年々高まっている

【目標設定にあたっての考え方】

県内周遊を促進することで、県域の構成比の低下を食い止める必要がある。したがって、設定する目標値は、令和7年度の実績値も踏まえながら、現状の構成比を維持する水準としたい。

（参考）宿泊税収実績に基づく政令市と県域の延べ宿泊者数推計値

	R2	R3	R4	R5	R6
延べ宿泊者数	6,115,610	9,620,530	13,993,580	20,420,370	23,950,020
政令市（推計）	4,645,988	7,570,095	11,416,081	17,327,527	20,517,341
県 域（推計）	1,469,622	2,050,435	2,577,499	3,092,843	3,432,679

※延べ宿泊者数：観光庁「宿泊旅行統計」

政令市・県域（推計）：延べ宿泊者数に宿泊税収実績に基づく政令市と県域の延べ宿泊者数構成比を乗じて算出